

認知症初期集中支援チーム 活動報告

資料6

(R6年12月1日現在)

1 認知症初期集中支援チームとは

認知症の人やその家族に早期に関わる支援チームを配置し、初期の支援を包括的・集中的(おおむね6ヶ月)に行うことによって、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とするチームのこと。

【認知症初期集中支援チームのメンバー】

- ◆医療と介護の専門職(保健師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士など)
- ◆認知症サポート医である医師

【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で、以下のいずれかの基準に該当する人

- ◆医療・介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人
 - (ア)認知症疾患の臨床診断を受けていない人
 - (イ)継続的な医療サービスを受けていない人
 - (ウ)適切な介護保険サービスに結び付いていない人
 - (エ)診断されたが介護サービスが中断している人
- ◆医療・介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

2 チーム員会議

支援方針、支援内容、支援頻度等を検討するため、専門医を含めたチーム員会議を行うもの。

- (1) 開催回数
令和6年度 8回
- (2) 出席者
認知症サポート医(伊丹市医師会)、チーム員(地域包括職員)、認知症地域支援推進員、介護保険課、
認知症疾患医療センター精神科リエゾンチーム 公認心理士(R3～)・精神科医(R5～)

3 対応事例

- (1) 支援を終了している事例 ※前回の本協議会後に終了となったもの

No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
1	女	82	家族	地域包括 支援センター	R6.3	R6.6	認知症	夫・次女と3人暮らし。物忘れがひどく、通販や訪問販売で契約したことを忘れてしまう。以前はできていた家事もできない。もともと社交的でなく、家で過ごすことが多いことから、家族としては、できるだけ他者と交流をして、認知症状の進行を緩やかにしたいという思いがある。介護保険サービス利用を目標に支援を開始。 筋力低下があることから訪問リハビリを導入。介護保険サービスにつながったため、支援終了となる。
2	男	73	家族	地域包括 支援センター	R6.5	R6.7	—	令和5年末頃から突然幻視、幻聴の相手と話すようになり、その相手に怒って棒を振り回したりと不穏な言動が昼夜関わらず見られ家族が疲弊している状況。家族が本人に病院受診を促すが、本人は「自分は正常だ」と受診を拒否。医療機関受診を目標に支援を開始。 精神科に家族受診をする。抗精神病薬を内服できたことで、本人は以前より睡眠がとれるようになり、症状が少し落ち着き、家族の負担が軽減した。本人がチーム員の訪問に対して拒否的になり、家族がこれ以上の介入を望まないため支援終了となる。
3	男	74	病院	地域包括 支援センター	R6.6	R6.8	認知症	独居で身寄りがなく、ATM操作をはじめ金銭管理ができず、病院での治療費、ガス代、家の更新料など滞納しており、水道のみ通っている。短期記憶がないため会話が成り立たない。養護老人ホーム入所まで、在宅生活を続けるために介護保険サービス利用を目標に支援する。 チーム員が同行し、医療機関受診、さらに介護保険認定申請につながった。健康状態悪化により、自宅で倒れていたところをチーム員が訪問時に発見し、救急搬送。退院の見込みがないため、支援終了となる。

No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
4	男	73	家族	地域包括支援センター	R6.6	R6.11	—	妻と2人暮らしだが、令和6年5月妻の入院をきっかけに本人の認知症が顕著になった。易怒性が高く、アルコール摂取量が多く、お酒がないと家族(妻・長女)に対してきつくあたるため、家族は負担に感じている。過去にもの盗られ妄想で他人にも迷惑がかかることがあり、家族から受診を勧めるも、受診拒否。医療機関への受診を目標に支援する。 本人が受診を拒否し、家族が本人を受診させる後押しができないため、医療機関受診にはつながらなかった。妻退院後は長女の意向で一時的に別居し、娘の支援を受け一人で生活が続けることができた。介護保険サービス利用の必要性がないことから、医療機関の情報提供をし、支援終了となる。
5	女	81	家族	地域包括支援センター	R6.7	R6.9	認知症	昨年ごろから、幻視や幻聴があり、夫に女性がいるなど夫に対する執着やこだわりが強く、見当識障害が見られる。外部との接触はなく、自宅に閉じこもっている。夫は無口で本人への関りが薄く、支援者は神奈川県に住む娘のみ。病院や薬が嫌いで、医療に繋がっていない。医療受診を目標に支援する。 チーム員からの紹介で医療機関受診ができた。介護保険の認定申請までつなげたが、本人が訪問調査を拒否し、取下げとなった。医療機関受診により、家族の困りごとがなくなったため支援終了となる。
6	女	76	家族	地域包括支援センター	R6.8	R6.10	アルツハイマー型認知症	自宅内の物が新しくなることや知らない人が入ってくることを嫌がるため、エアコンや冷蔵庫は壊れて使えず、水道の修理は家族が行った。洗身、洗髪が全くできていない状態。本人のこだわりの強さや融通が利かない点に家族が困っており、往診してくれる病院を紹介してほしいと希望がある。医療機関受診を目標に支援する。 チーム員が訪問診療可能な精神科兼内科を紹介し、継続して受診ができています。併せて認定申請もできた。今後の支援は地域包括支援センターに依頼し、チーム員の支援は終了となる。

(2) 支援中の事例

No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	事例概要
1	女	76	家族	地域包括支援センター	R6.10		—	夫の姿が見えなくなると不安で探し回り、別居の息子に連絡をしてしまうため、夫は本人から離れることができずに困っていると、夫から地域包括支援センターに相談があった。医療機関への受診もできていない状態のため、医療機関受診と介護保険サービスの利用を目標に支援する。